



カテーテルアブレーションの様子

不整脈は日常診療において、しばしば遭遇されます。その自覚症状は動悸、脈の結滞、胸痛、めまい・ふらつき、失神や突然死を引き起こすなど様々である一方、無症候で経過し健診などで初めて指摘されることがあります。不整脈疾患は頻脈性不整脈(心房細動、心室期外収縮、心室頻拍や心室細動など)と徐脈性不整脈(洞不全症候群や房室ブロックなど)に大別できますが、これらは的確に評価診断され、適切な治療を施される必要があります。治療方法として、カテーテルアブレーションや心臓植込みデバイス(ペースメーカ、植込み型除細動器、心臓再同期治療や植込み型心電計など)を用いた非薬物療法、抗不整脈薬、抗凝固薬や抗心不全薬などを用いた薬物療法があり、様々な選択や組み合わせから最適治療を施します。そ

れらの治療法の多くは、自覚症状の改善のみならず、脳梗塞の予防、心不全の予防と改善や生命予後の改善をもたらすなど、高いエビデンスを有しており、患者さんにとって大きな福音をもたらします。

福岡大学病院の不整脈診療は、開院以来、循環器診療をリードし、地域医療に貢献し、多くの新しい知見を発信してきました。現在、最先端の3次元マッピングシステムを用いたカテーテルアブレーションや心臓植込みデバイスを駆使し診療しており、その必要性や需要はますます増加しています。また、先端テクノロジーは日々進化しているため、関わる医療者は医師のみならず看護師、放射線技師、臨床検査技師や臨床工学技士など多職種にわたり、診療科・部門は循環器内科のみならず心臓血管外科、救命救急

センターや臨床検査・輸血部などの横断的協力と包括的運営が不可欠です。

こうした背景から、2025年4月1日に福岡大学病院不整脈センターを新設し、当院の不整脈診療を充実させ、より活発で集学的な診療を展開し、患者さんをはじめ多くの方にとって最善最良の診療を提供していく所存です。今後とも何卒よろしくお願いいたします。



不整脈センター センター長

医師 小川 正浩

おがわ まさひろ

福大病院

ニュース

No.131

Fukuoka University Hospital News

2025
春号
SPRING

新設部門のご紹介

脳卒中センターの新設について

2025年4月1日付で福岡大学病院脳卒中センター長を拝命致しました、脳神経内科の緒方利安です。

私は1997年に九州大学を卒業後、九州大学病態機能内科学に入局しました。国立循環器病センターのレジデントとして勤務していた際に、神経超音波を用いての脳血管障害の臨床について研究を行い、学位を取得しました。その後九州大学病院、九州医療センター、オーストラリアメルボルンへの留学を経て、2011年より11年間福岡大学病院で脳卒中の臨床、研究を中心に診療をさせていただきました。その後、2022年より福岡赤十字病院脳神経内科で脳卒中を含めた脳神経内科の現場での診療を行なって参りました。

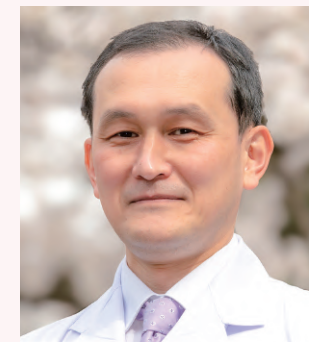
脳卒中が原因で入院した患者さんと、現在通院している患者さんを合わせた脳卒中の有病者数は174万人と多く、日本人の4人に1人は生涯に1度脳卒中を発症するとされています。いったん脳卒

中を発症すると、80%の方には何らかの後遺症が残るとの報告もあります。よって健康寿命の観点から、脳卒中診療に国も注目しており、2018年に脳卒中・循環器病対策基本法が制定され、脳卒中診療を行なう病院の診療体制に対する法整備が進んでいます。

現在日本における脳卒中の診療体制は、脳卒中患者を24時間365日受け入れて急性期脳卒中診療を行なうPSC(Primary Stroke Center)と、機械的血栓回収療法を常時行えるPSCコアに分けられています。PSCコアでは患者さんや家族の医療、介護に関する情報を提供する脳卒中相談窓口の設置も義務づけられています。このような複雑な業務を地域の中核施設として担っていくことは、福岡大学病院としてふさわしいものであると考えております。当院は現在PSCではありませんが、今後体制を整備しPSCコアの施設認定を目指して参ります。

脳卒中患者は救急で受診することが多く、救急体制の整備や地域

の開業医の先生方との連携が欠かせません。診療においてはt-PA療法などの急性期血行再建術だけでなく、抗血栓療法や脳梗塞の原因となり得る糖尿病などの動脈硬化疾患、心疾患についての幅広い知識が必要です。患者さんに現れる脳神経症状や神経診察への精通はもちろん、脳神経外科的な手術の適応やリハビリテーションについても深い造詣が必要です。これらを包括的に行なうことのできる人材は必ずしも多くありません。私は福岡大学病院でこれらを実践しつつ、これからの脳卒中診療を担う新たな人材の育成にも関わっていきたく考えています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



脳卒中センター センター長

医師 緒方 利安

おがた としやす

Open! 当院では、
各種SNSを
開設しています!

福大病院ニュース

公式YouTubeチャンネル
<https://www.youtube.com/channel/UCYwMO3PwlaDYNNvXTXVUocA>



Facebook
<https://www.facebook.com/FukuokaUniversityHospital/>



X (旧Twitter)
<https://x.com/Fukuokaunivhosp>



instagram
<https://www.instagram.com/fukuokaunivhosp/>



福岡大学病院

〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目 45 番 1 号
TEL (092) 801-1011 代 URL : <https://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/>



呼吸器・乳腺・小児外科

診療科名称変更と診療科のご紹介

2025年春から診療科名を「呼吸器・乳腺内分泌・小児外科」から「呼吸器・乳腺・小児外科」へ変更することといたします。診療内容に変更はありませんのでどうぞご安心ください。

呼吸器外科グループでは年間700例以上の手術を行っております。特に肺がん症例は経験豊富なスタッフにより九州一の症例数があり、ほぼすべて内視鏡手術（筋肉を切らない小さな創やロボット手術）で施行しています。福岡大学病院には全身すべての疾患の専門家がいますので透析中の方や心臓疾患をお持ちの方などにも安心して治療を受けていただく体制を整えています。

緊急を要する患者さんや他院での治療でお困りの方にも気軽に相談いただけるように肺がんホットライン（下記参照）も設けております。是非ご利用ください。また、肺移植も全国有数の実績を



内視鏡手術の様子

あげています。

乳腺外科グループは5名（女性医師が4名）が診療にあたっており、年間100例以上の悪性腫瘍手術を行っています。腫瘍・血液・感染症内科、放射線科、形成外科と協力し、乳房再建術など専門性の高い治療を行っています。

小児外科グループは新生児から学齢期の患者さんまで、鼠経ヘルニア、虫垂炎、便秘や血便などの日常疾患からヒルシスプルング病、直腸肛門奇形などの希少疾患まで幅広い疾患を対象としており、2024年は6例の新生児手術を含む102例の手術を行っています。

耳鼻咽喉・頭頸部外科

診療科名称変更と診療科のご紹介

皆様に広く知られてきた福岡大学病院の「耳鼻咽喉科」という名称は、2025年4月より、「耳鼻咽喉・頭頸部外科」へと変更されることになりました。これは本邦を含め世界の耳鼻咽喉科が同様の名称変更をしている流れをふまえての対処です。理由は耳鼻咽喉科という名称だけでは、手術などの外科的治療を主体とした診療科という実情が患者さんに伝わりにくいためです。それゆえ過去には頭頸部の良性腫瘍やがんなどを抱えた患者さんが、耳鼻咽喉科以外の診療科を受診し不利益が生じてしまった事例が報告されていました。そこで頭頸部の良性腫瘍やがんを抱えた患者さんが迷うことなく耳鼻咽喉科を受診できるよう、「頭頸部外科」を追記するようになりました。ただしこの名称変更は大学病院を始めとする大きな医療施設が中心で、一般的な開業医の名称は耳鼻咽喉科のままが多いです。

さて、名称は変わっても当科の業務は以前からと何ら変わりありません。聴覚・平衡覚（体のバランス保持機能）・嗅覚・味覚のほか、呼吸・嚥下・音声言語など、生きていくための重要な感覚器や運動器を診療すると同時に、顔面・頭部・頸部領域の良性腫瘍やがんを診療しております。真珠腫性中耳炎や慢性中耳炎などの耳疾患、鼻炎や副鼻腔炎などの鼻疾患については、顕微鏡や内視鏡・外視鏡を用いた精度の高い手術治療を実践しております。耳管開放症に対する耳管ピン手術は認可施設が少ないため、九州各県から患者さんが紹介受診されます。補聴器が役に立たないくらい重度な難聴の患者さんには、高度先進医療である人工内耳手術を行っております。また最近聴力検査では正常なのに難聴を自覚する“聞き取り困難症”と呼ばれる患者さんが増えたことから、新たな検査を導入・開発しております。喉頭がん・上顎

がん・咽頭がん・耳下腺がん・甲状腺がんなど、頭頸部領域の悪性腫瘍については、放射線科、形成外科、歯科口腔外科、消化器外科、腫瘍・血液・感染症内科などと連携し、生活の質に配慮した治療を行っております。

当科では原則として最寄りの耳鼻咽喉科への受診歴がない患者さんは診療していません。お困りの症状がある場合は、まず最寄りの耳鼻咽喉科で診療を受けて下さい。その上で、当科での診療が必要と判断された場合に受診予約という手順となります。また、当科で治療を実施することになっても、最寄りの耳鼻咽喉科の協力が必要なので、そのような意味でも、お近くにかかりつけの耳鼻咽喉科を確保されることをお勧めします。

今後とも耳鼻咽喉・頭頸部外科をよろしくお願い致します。

肺がんホットライン

福大
胸部異常陰影が見つかったら

肺がん
ほっとライン

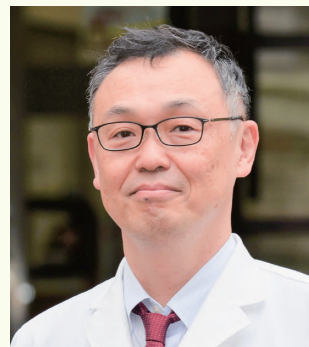
お名前とお誕生日ですぐ予約OK!
専用ダイヤル **080-8385-1195**
受付 平日 09:00~17:00

肺がんといわれた、または肺がんかも？と言われたら今すぐ「福大肺がんほっとライン」へ！肺がんほっとライン経由でご予約いただければ新患受付でお待ちすることなく、直接呼吸器センター受付へお越しいただけます。今かかっておられる先生からの紹介状やフィルムなどお持ちいただいたらより迅速に対応できます。最短の検査日程で患者様の**早期社会復帰**を支援します。

ホームページは
こちらから！



ほっとラインではおおよその検査・手術可能予定もお伝えします。（詳しくは受診していただくことになります）



呼吸器・乳腺・小児外科
教授・診療部長
医師 **佐藤 寿彦**
さとう としひこ



耳鼻咽喉・頭頸部外科の主なスタッフと実習生



耳鼻咽喉・頭頸部外科
教授・診療部長
医師 **坂田 俊文**
さかた としふみ